第3次 富山市上下水道事業
中長期ビジョン(案)
＜本編＞

第１章 中長期ビジョンの概要／４

１　ビジョン策定の趣旨／４

２　ビジョンの位置付け／５

３　ビジョンの計画期間／５

第２章 富山市の上下水道事業を取り巻く現状と課題／６

１　人口減少／６

２　上下水道インフラの老朽化／７

３　自然災害の激甚化・頻発化／１１

４　下水道管路マネジメントの強化／１５

５　物価、エネルギーコスト等の上昇／１６

６　専門人材の不足／１７

７　事業者数の減少／１８

第３章 2050年の富山市上下水道の理想像(あるべき姿)／１９

１　現在市民と将来市民に共通する希望・願い／１９

２　2050年の理想像（あるべき姿）／１９

第４章 経営の基本理念と基本方針／２０

１　経営の基本理念／２０

２　経営の基本方針／２０

第５章 主要施策／２１

１　基本方針１「安全・安心」主要施策　／２１

２　基本方針２「　強　靭　」主要施策　／２３

３　基本方針３「　持　続　」主要施策　／２５

４　基本方針４「　信　頼　」主要施策　／２８

第６章 投資・財政計画／２９

第７章 経営指標／３３

管理者あいさつ

第1章 中長期ビジョンの概要

1　ビジョン策定の趣旨

中長期ビジョンは、平成19(2007)年度からスタートする富山市総合計画を上位計画として、上下水道事業のあるべき姿と目指す方向性を明らかにするため、平成19(2007)年度から平成28(2016)年度までの10年間を計画期間とする「第1次富山市上下水道事業中長期ビジョン」を策定し、「施設整備・拡張」を中心に事業を推進し、良質な上下水道サービスの提供に努めました。

また、引き続き目指す方向性を明らかにするため平成29(2017)年度から令和8(2026)年度までの10年間を計画期間とする「第2次富山市上下水道事業中長期ビジョン」を策定し、これまでの施設整備・拡張を中心とした事業推進から、「施設の維持管理」を中心とした事業展開に移行し、水道水の安定供給や快適な生活環境の確保を図ってきたところです。

この間、本市上下水道事業を取り巻く環境は大きく変わりました。上下水道施設や管路の老朽化が進み、更新の必要性が高まっていることに加え、能登半島地震などの自然災害への対応も急務となっています。また、今後、本市の人口はいっそう減少することが見込まれ、それによる水需要の減少と水道料金収入等の減少、物価、エネルギーコストの上昇など、課題は多岐にわたります。

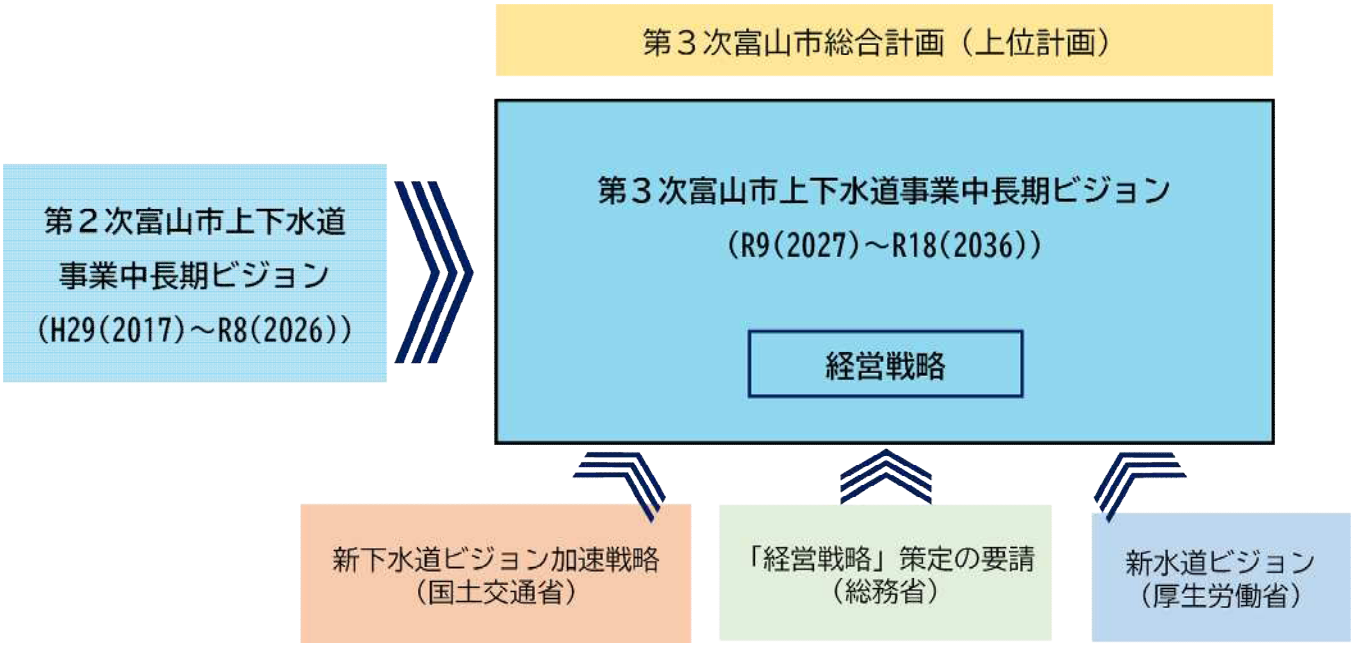
こうした時代変化や課題に的確に対応し、将来にわたり安定した上下水道サービスを提供していくため、「選択と集中」に基づく事業マネジメントの推進をコンセプトに、新たに令和9(2027)年度から令和18(2036)年度までの10年間を計画期間とする「第3次富山市上下水道事業中長期ビジョン」を策定するものです。

○コンセプト

第１次ビジョン…「施設整備・拡張」を中心とした事業の推進
（平成19年～平成28年）
第２次ビジョン…「施設の維持管理」を中心とした事業の推進
（平成29年～令和8年）
＜今回＞ 第３次ビジョン…「選択と集中」に基づく事業マネジメントの推進
（令和9年～令和18年）

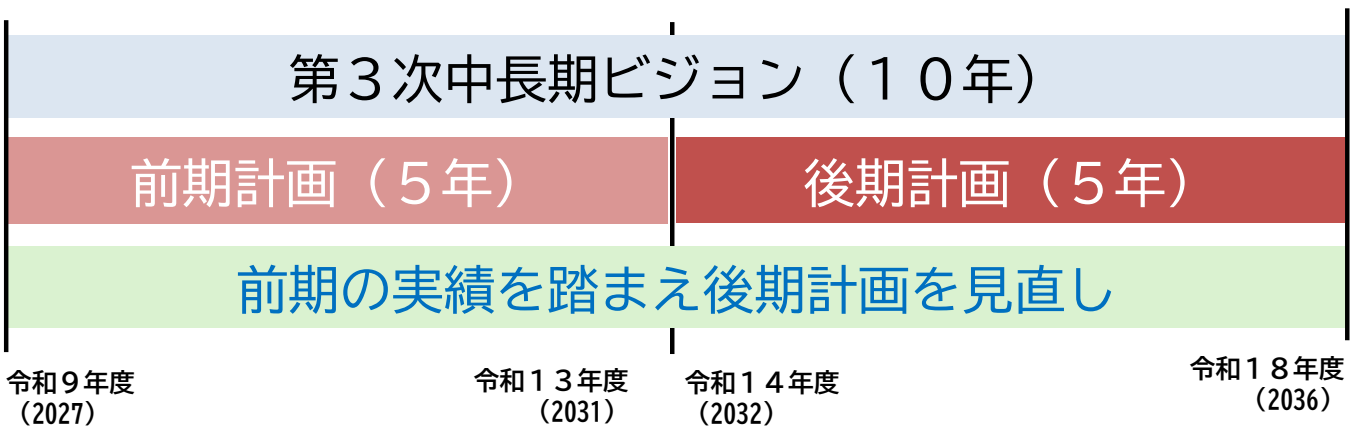
2　ビジョンの位置付け

本ビジョンは、本市の最上位計画である「第3次富山市総合計画（令和9(2027)年度から令和18(2036)年度）」と整合を図りつつ、前ビジョン(第2次ビジョン：平成29(2017)年3月策定)の施策の進捗状況を踏まえ、国の「新水道ビジョン（平成25(2013)年：厚生労働省）」、「新下水道ビジョン加速戦略(改訂)（令和5(2023)年：国土交通省）」の趣旨を考慮して策定するものであり、本市の上下水道事業の根幹を成す計画として位置付けるとともに、総務省が公営企業に策定を要請する「経営戦略」としても位置付けるものです。



3　ビジョンの計画期間

第３次中長期ビジョンの計画期間は令和9(2027)年度から令和18(2036)年度までの10か年とし、前期の実績を踏まえて後期計画を見直し、各事業を着実に推進します。



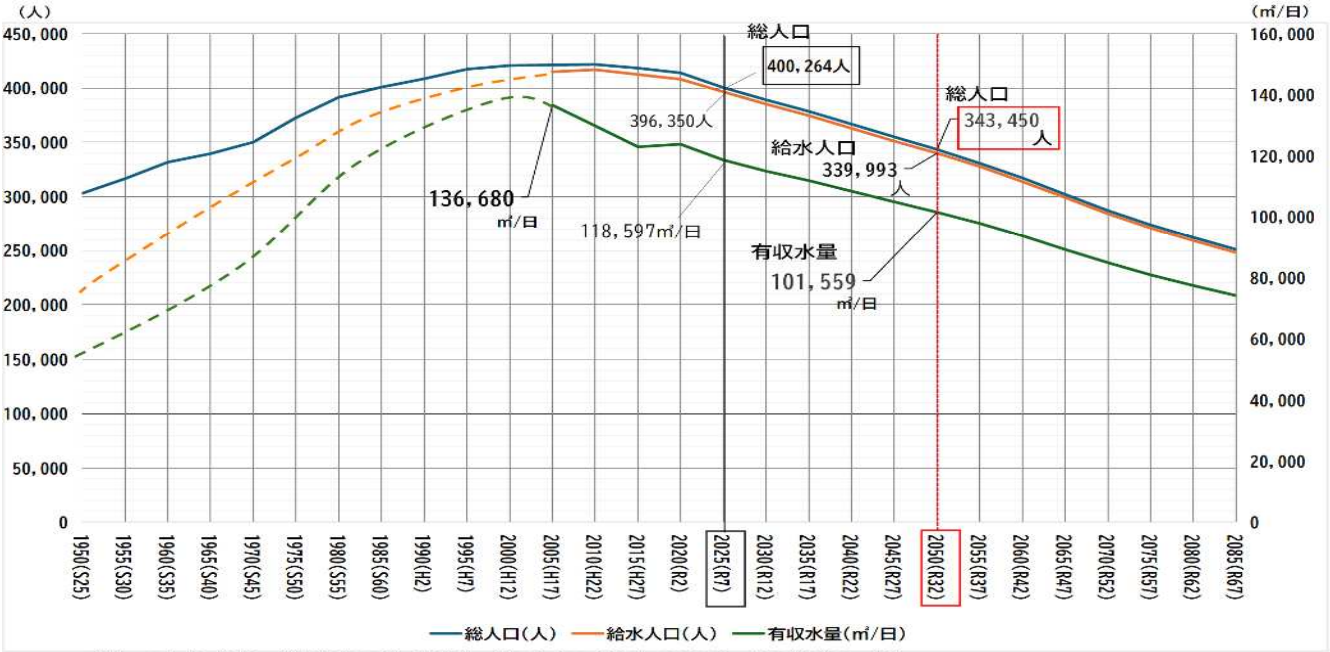
第2章 富山市の上下水道事業を取り巻く現状と課題

1 人口減少

	R7(2025)年度実績 ※収益はR8(2026)年度予算	R32(2050)年度推計	増減率
人口	400,264人	343,450人	▲14.2%
世帯数	188,456世帯	170,888世帯	▲ 9.3%
給水収益	約7,295百万円	約5,935百万円	▲18.6%
下水道収益	約8,351百万円	約7,469百万円	▲10.6%

出典：富山市上下水道局作成(下表等参照)

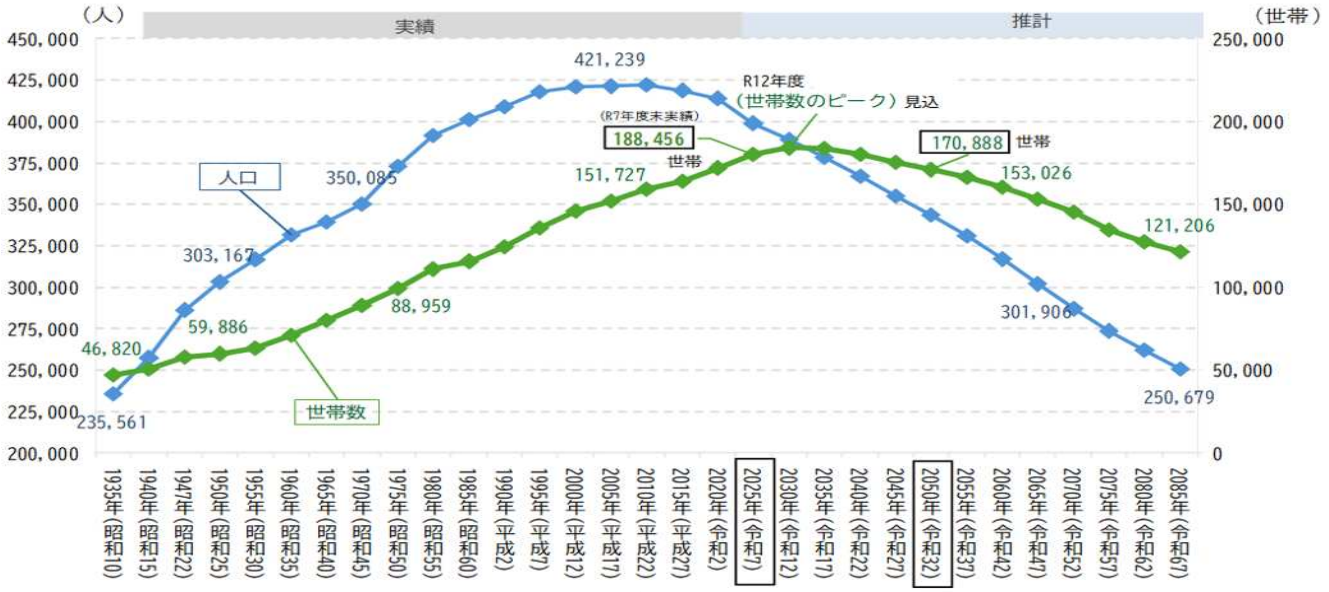
富山市の人口と給水人口と有収水量の実績と将来推計



※総人口は富山市将来人口推計報告書に基づき作成、令和7年度は、令和8年3月末現在の住民基本台帳の数値
※給水人口は、富山市上下水道事業年報（H17～R7年度）、R8年度以降は富山市将来人口推計報告書等に基づく推計値
※有収水量は、富山市上下水道事業年報（H17～R7年度）、R8年度以降は富山市将来人口推計報告書等に基づく推計値

出典：富山市上下水道局作成(富山市将来人口推計報告書、富山市上下水道事業年報等参照)

富山市の人口と世帯数の実績と将来推計



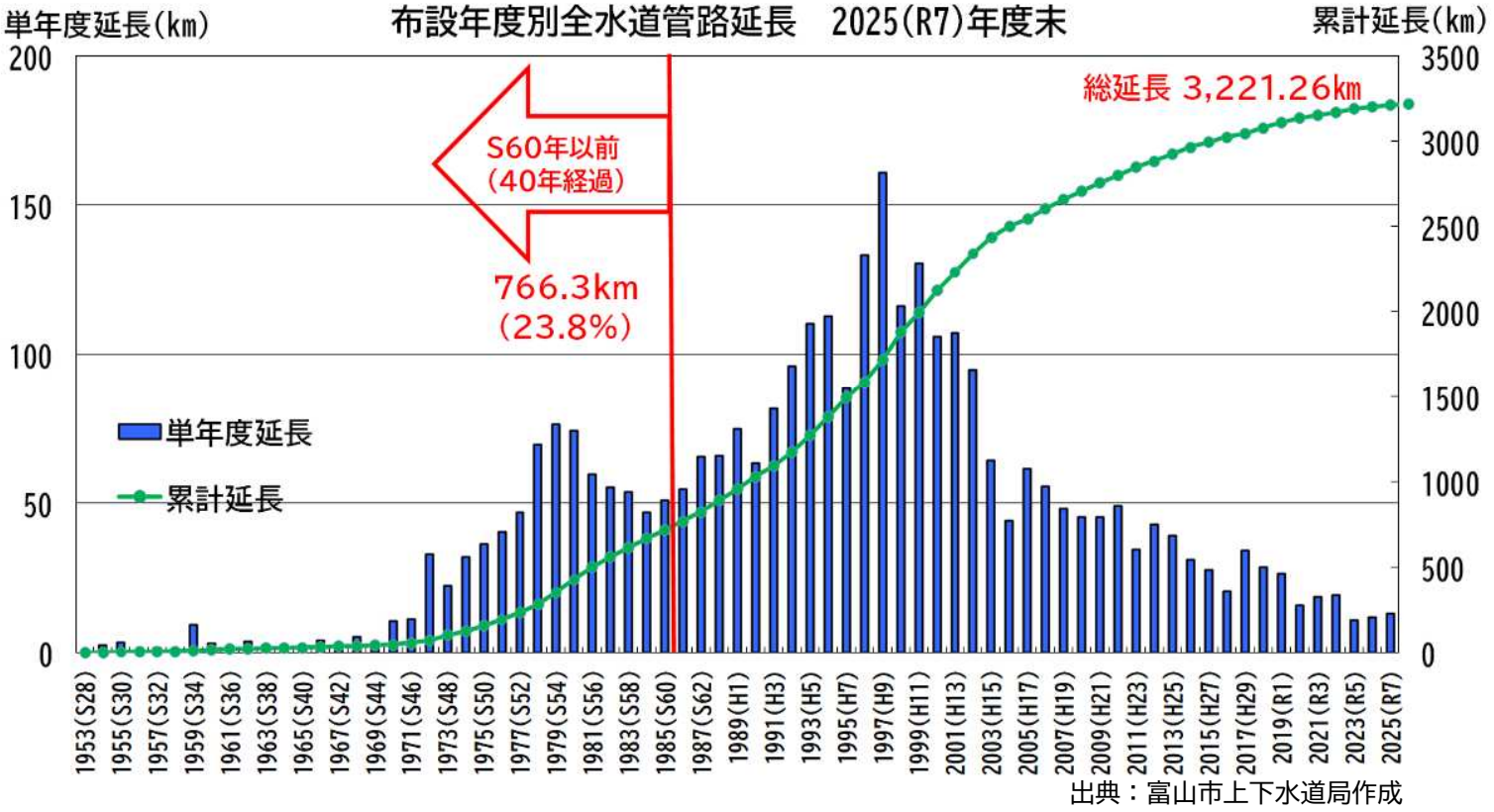
出典：富山市都市マスタープラン(富山市将来人口推計報告書等参照)

2 上下水道インフラの老朽化

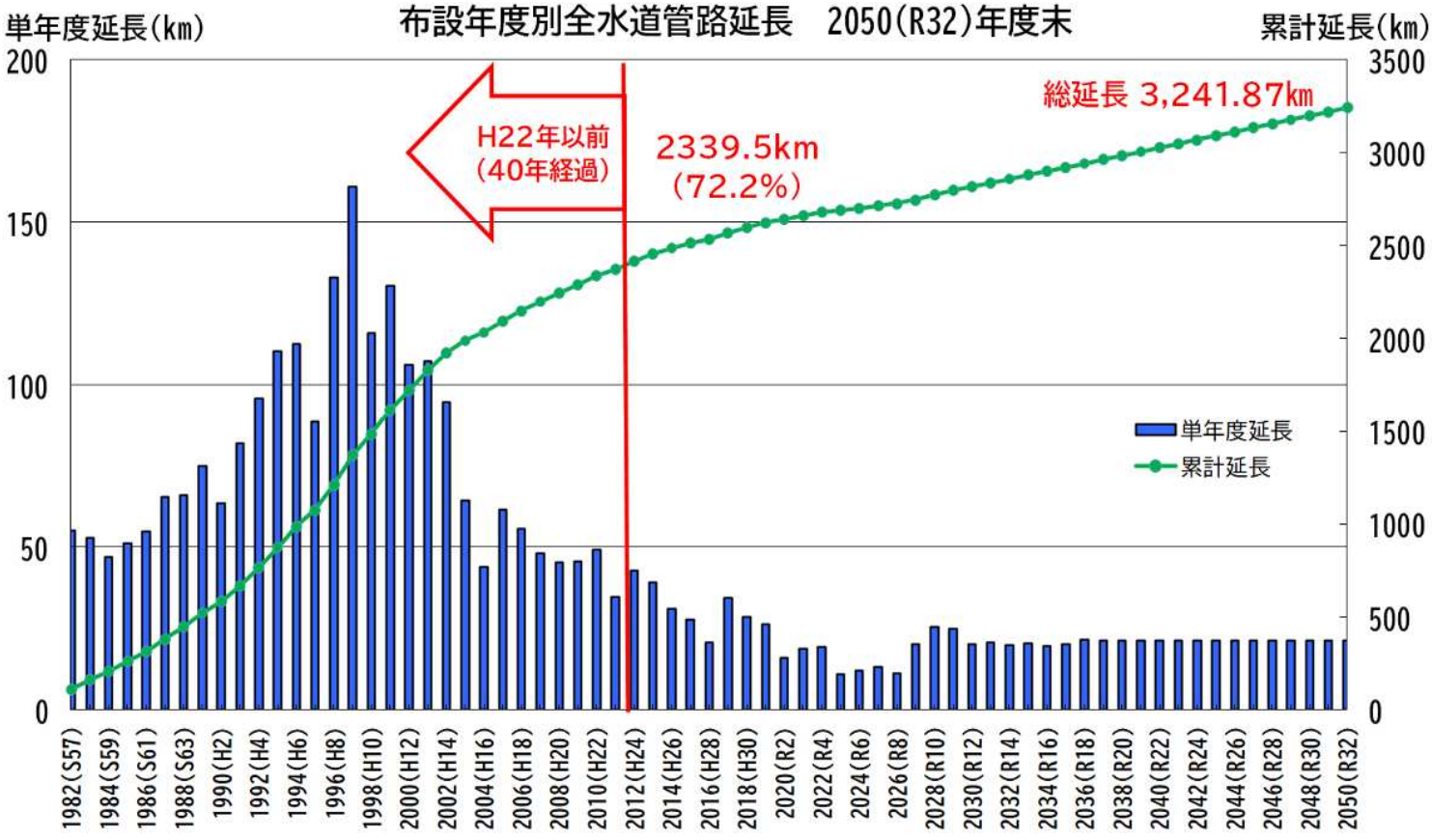
(1)水道管の延長

- 水道管の総延長は3,221kmと中核市で5番目に長く、現在も拡張を続けており、令和32(2050)年度末には3,242kmとなる見込み
- 法定耐用年数(40年)を超えた水道管の割合は、令和7(2025)年度末　24.0%から令和32(2050)年度末　72.2%となる見込み

[富山市の水道管の総延長の現状と今後の見通し]



出典：富山市上下水道局作成

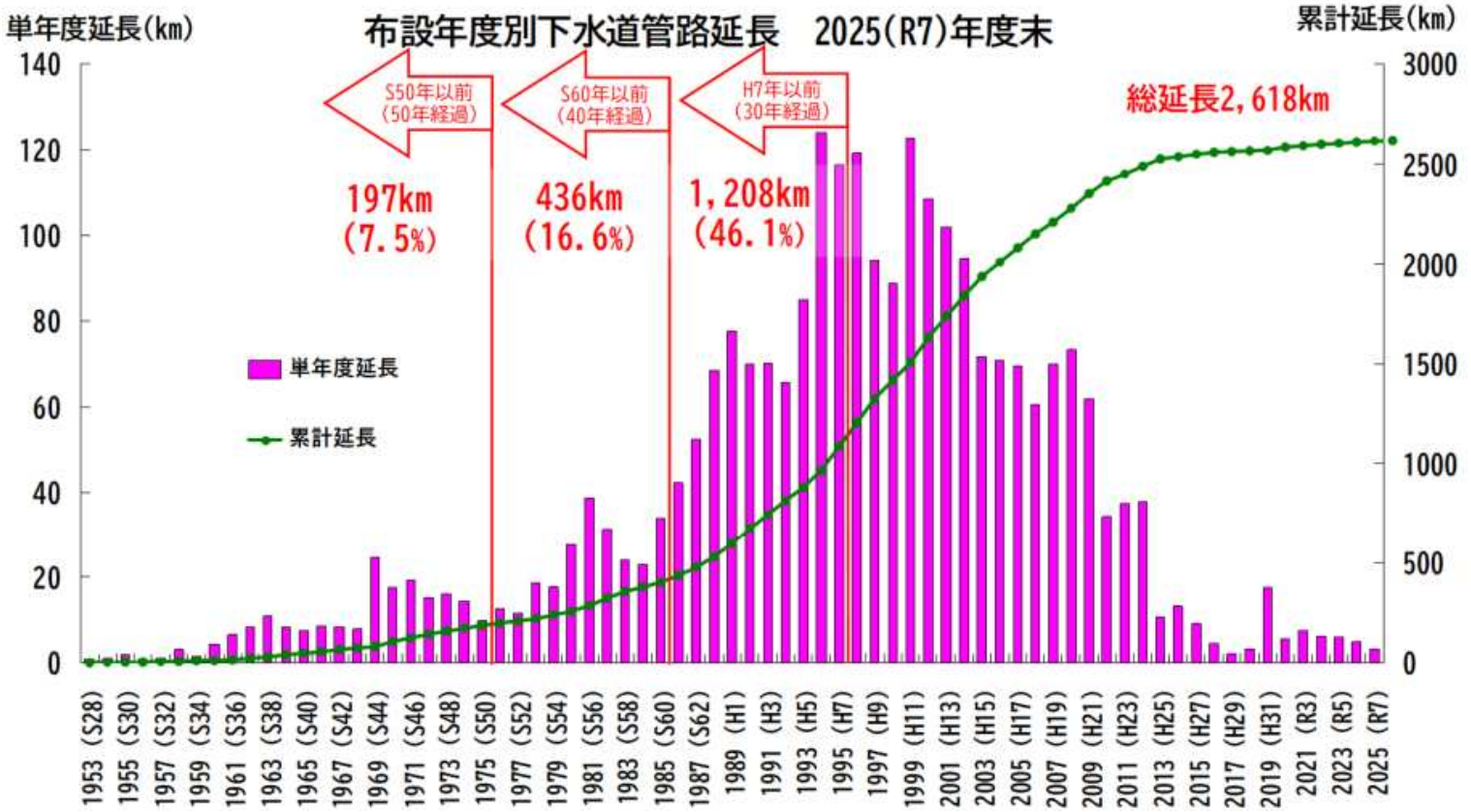


出典：富山市上下水道局作成

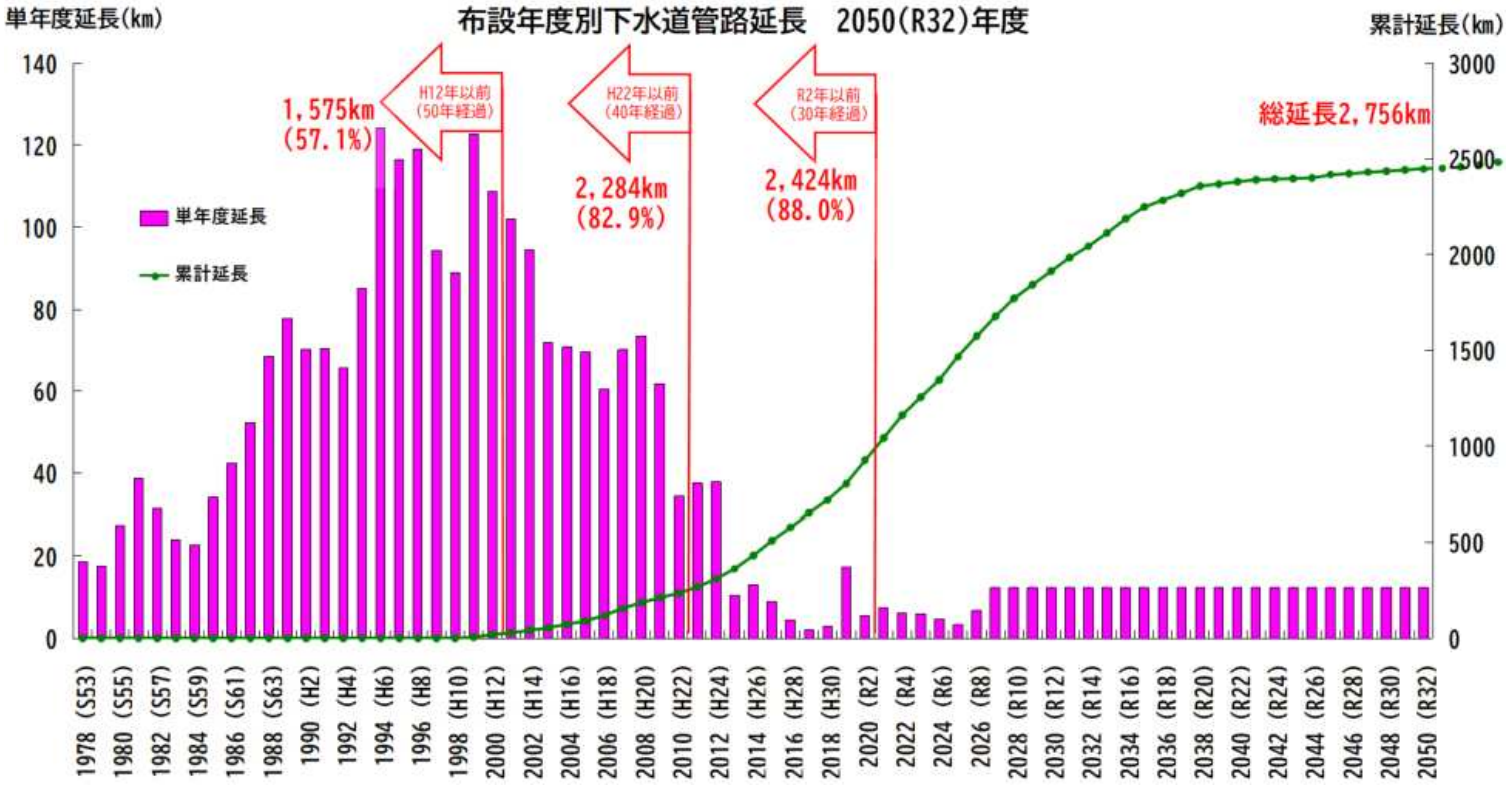
(2)下水道管の延長

- 下水道管の総延長は2,618kmと中核市で2番目に長く、現在も拡張を続けており、令和32(2050)年度末には2,756kmとなる見込み
- 標準耐用年数(50年)を超えた下水道管の割合は、令和7(2025)年度末　7.5%から令和32(2050)年度末　57.1%となる見込み

[富山市の下水道管の総延長の現状と今後の見通し]



出典：富山市上下水道局作成

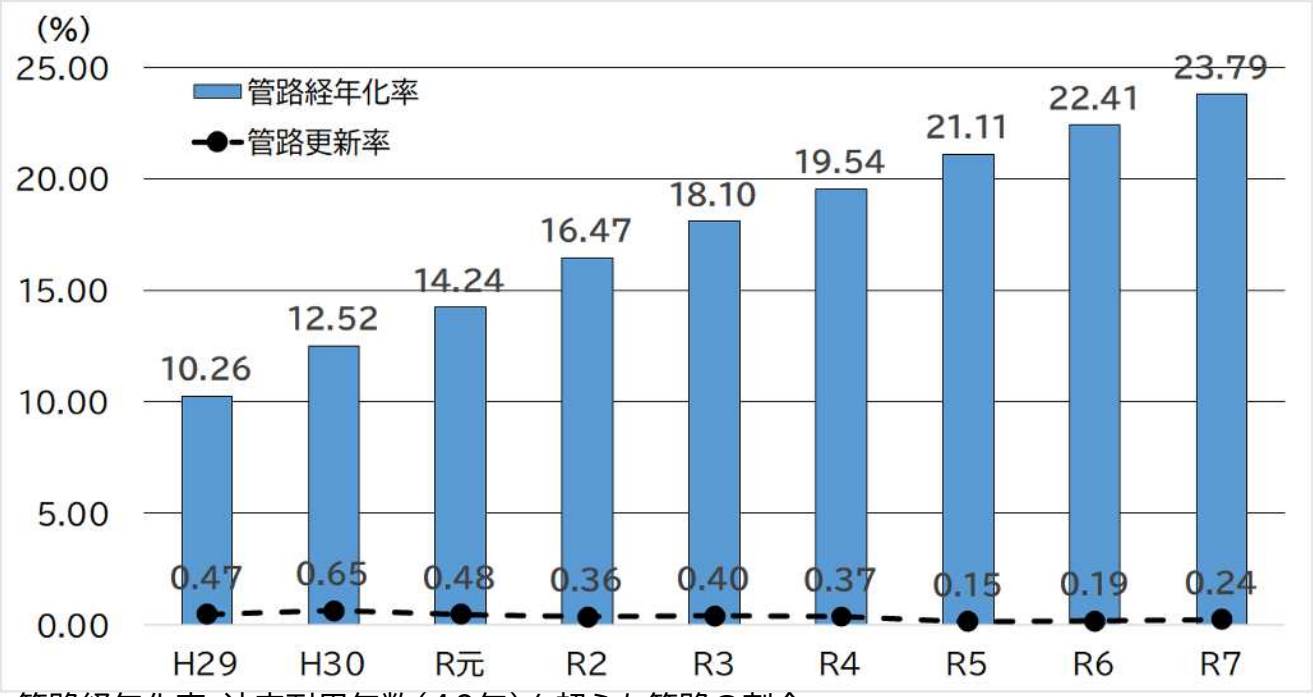


出典：富山市上下水道局作成

(3)水道管の経年化率と更新率の推移

・管路の老朽化が進む一方で、更新があまり進んでいない。
水道管の更新延長 年間約8㎞（更新率0.24%）（参考：R5全国平均0.61%）

➡ 仮に全管路を更新する場合、約400年かかるペース



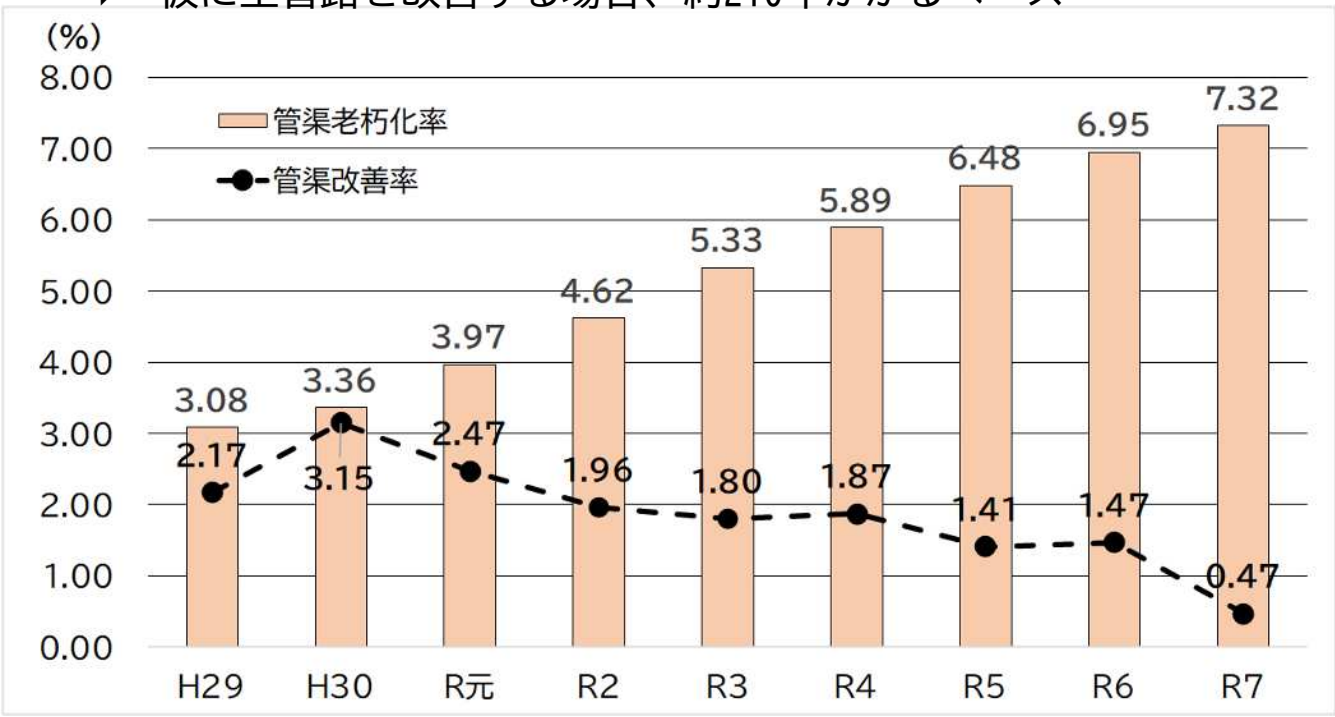
管路経年化率:法定耐用年数(40年)を超えた管路の割合
管路更新率:管路延長に対する各年度に更新した延長の割合

出典：富山市上下水道局作成

(4)下水道管の老朽化率と改善率の推移

・水道管と同様、管路の老朽化が進む一方で、改善があまり進んでいない。
下水道管の改善延長 年間約13㎞（改善率0.47%）

➡ 仮に全管路を改善する場合、約210年かかるペース



管渠老朽化率：標準耐用年数（50年）を超えた管渠の割合

出典：富山市上下水道局作成

管渠改善率:管渠延長に対する各年度に更新･改良等の改善対策を行った延長の割合

（5）水道管の老朽化による漏水件数

○水道（配水）管は布設後40年を経過すると漏水事故のリスクが高まる傾向
（令和7年度 86件のうち71件）
○令和7年度末の本市の40年以上経過した水道（配水）管延長は全体（3,221ｋｍ）の24.0%
○2050年（令和32年度）には40年経過した水道（配水）管延長は全体（3,242ｋｍ）の72.2%となる見込み
○これによりこのままのペースで更新を進めた場合の漏水件数は、令和７年度と比較し、３．０倍（71件⇒210件）に増加する見込み

本市の2050年に想定される漏水件数



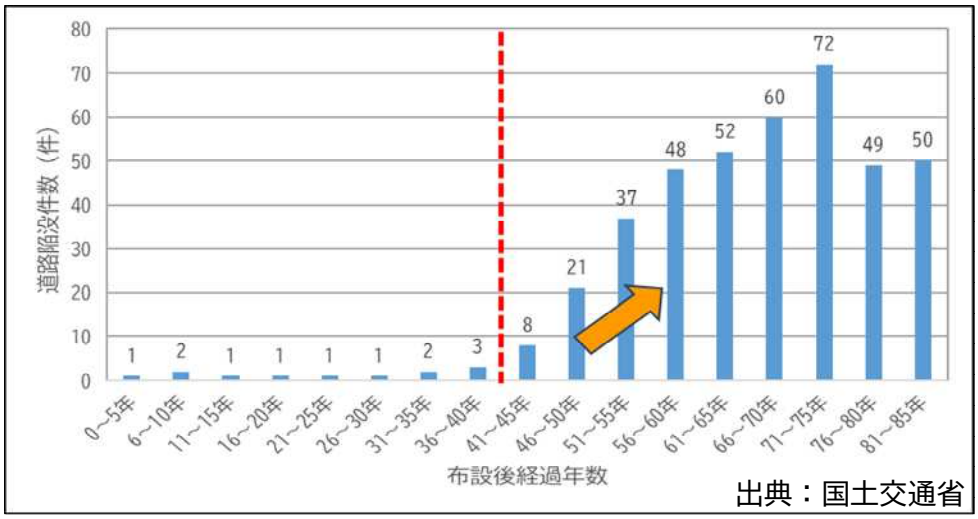
出典：富山市上下水道局作成

○給水管の平成28年度の漏水件数は255件、令和7年度は342件であり、10年で約1.5倍
単純に10年の増加倍率を25年に2.5倍して計算すると、令和32年度は令和7年度の342件の約3.4倍、約1,146件と予測
○給水栓数は令和7年度の約20万栓から給水人口減少に伴い令和32年度には約17万栓と見込まれ、さらに25年で15%減少し約14.5万栓になると仮定
○漏水件数が給水栓数に比例すると仮定した場合、1,146件に0.85を掛けて約974件
○令和7年度の342件と比較すると、給水栓減少を考慮した場合の令和32年度の漏水件数は約2.9倍

（6）下水道管の老朽化による道路陥没件数

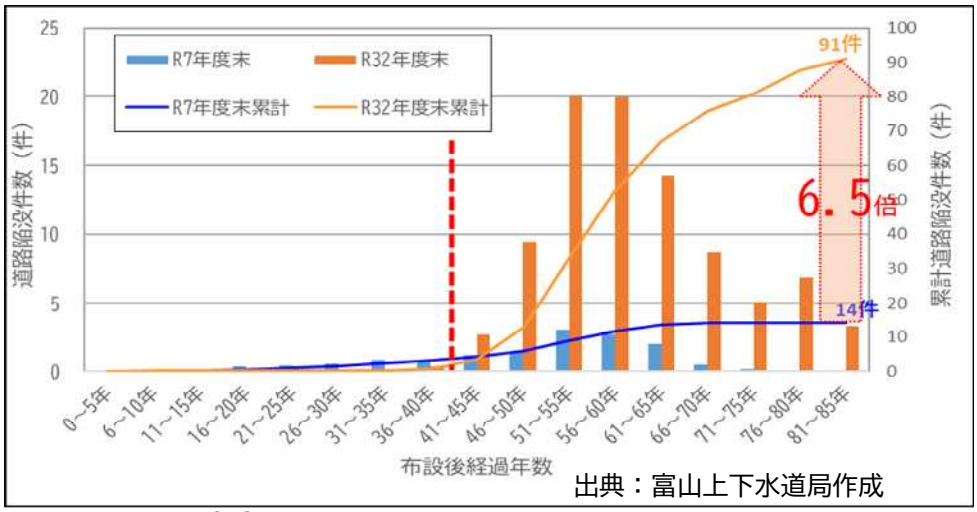
○下水道管は、布設後40年を経過すると道路陥没のリスクが高まる傾向
○令和7年度末の本市の40年以上経過した下水道管の延長は全体（2,619km）の17%
○2050年（令和32年度）には40年以上経過した下水道管の延長は全体（2,756km）の83%となる見込み
○これによりこのままのペースで更新を進めて行った場合、道路陥没件数は、令和7年度と比較し６．５倍（14件⇒91件に）増加する見込み

布設後経過年数区分別の
<u>管路延長1,000km当たり</u>の道路陥没件数（令和４年度）



出典：国土交通省

本市の2050年に想定される道路陥没件数



出典：富山上下水道局作成

このままでは・・・
漏水件数・道路陥没件数は増え続けてしまう

3　自然災害の激甚化・頻発化

（１）近年の大規模自然災害や重大事故の発生状況と上下水道への影響

【水道】



【下水道】

出典：富山市上下水道局作成（国土交通省資料参照）

（２）令和６年能登半島地震における富山市の被害状況と耐震化の効果

耐震管の有効性（富山県庁 南側市道）

段差が生じるなど**道路は通行できない**状況となったが、地下に埋設されている**配水管（耐震管）については被害がなかった。**



出典：富山市上下水道局作成

（３）令和８年熊本地震「災害の全体像」

●各観測点の震度分布



※最大断水戸数108,100戸、８月中に断水解消

●地震の概要及び各地の震度（震度６弱以上）

発生日時	令和８年７月２８日　１６：２７
震源地	熊本県熊本地方
地震の規模	マグニチュード７．１
震度７	熊本県宇城市、氷川町
震度６強	熊本県熊本市、八代市、宇土市　ほか３町
震度６弱	熊本県上天草市、合志市　ほか４町村

●建物等の被害状況



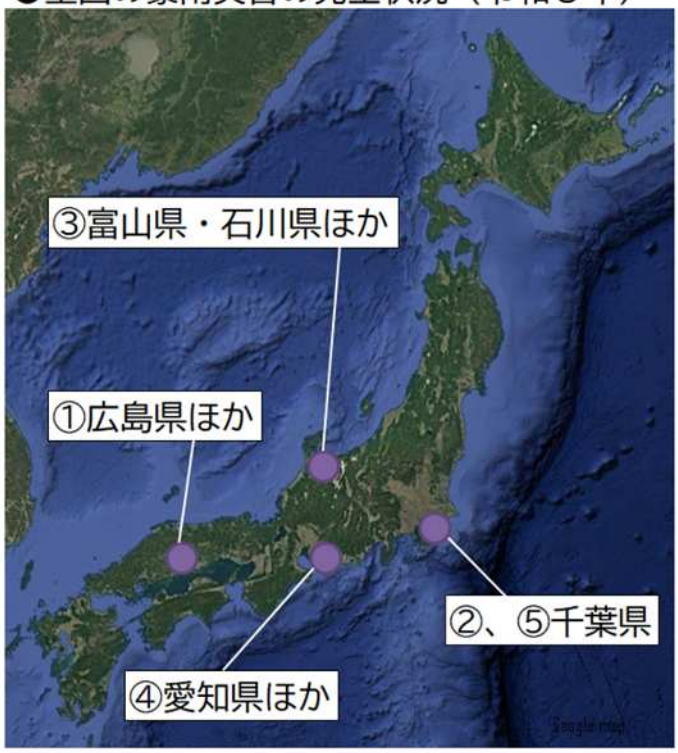
（宇城市）



（宇城市）

（４）台風や線状降水帯による豪雨災害の被害状況

●全国の豪雨災害の発生状況（令和８年）



●全国豪雨災害の概要（令和８年）

No	発生日時	発生場所	災害名
①	６月２４日	広島県ほか	令和８年６月２４日からの大雨
②	８月１３日	千葉県	千葉豪雨
③	８月２７日	富山県ほか	令和８年８月２７日からの大雨
④	９月３日	愛知県ほか	台風２４号及び前線による大雨
⑤	９月２０日	千葉県	台風２５号及び前線による大雨

●被害状況



（千葉県大網白里市）

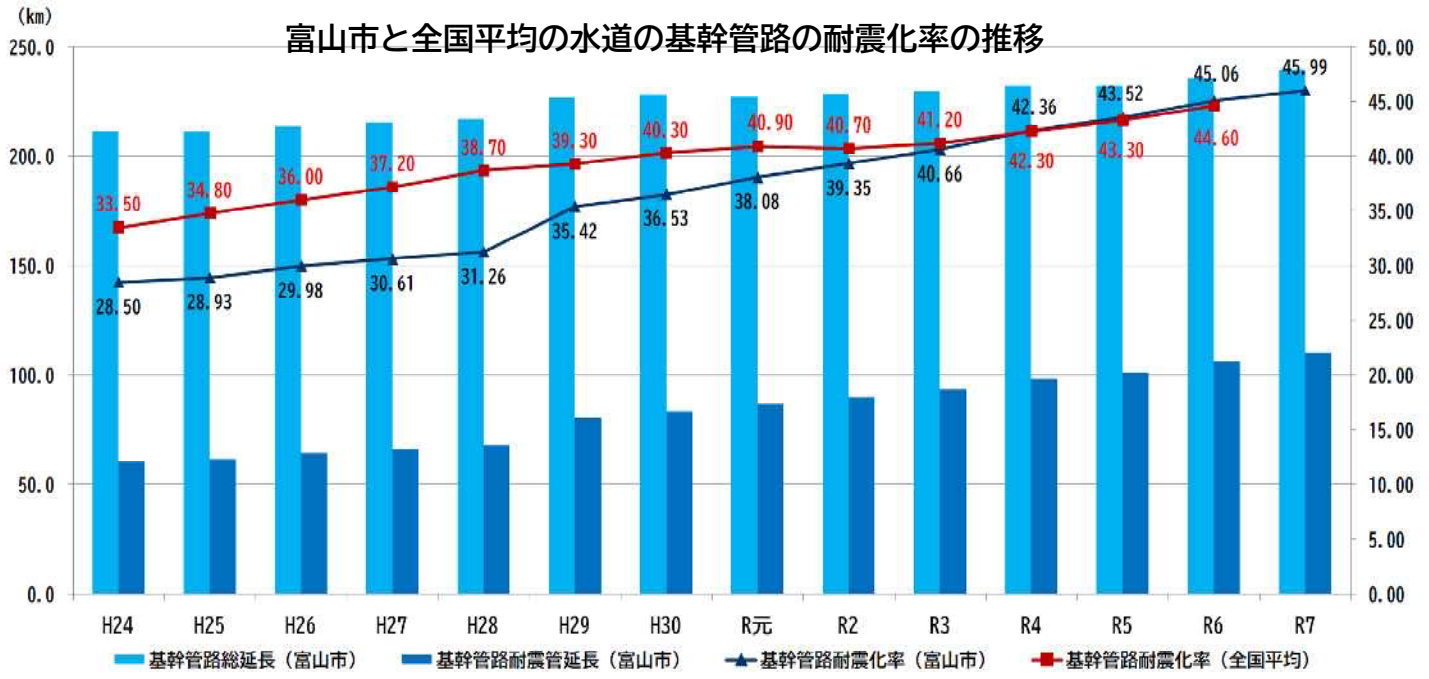


（千葉県千葉市）

出典：富山市上下水道局作成

(5)水道管の耐震化率の推移

○　富山市の水道管の基幹管路の耐震化率は、全国平均に比べ低く推移していたが、令和４年度からやや上回って推移している。

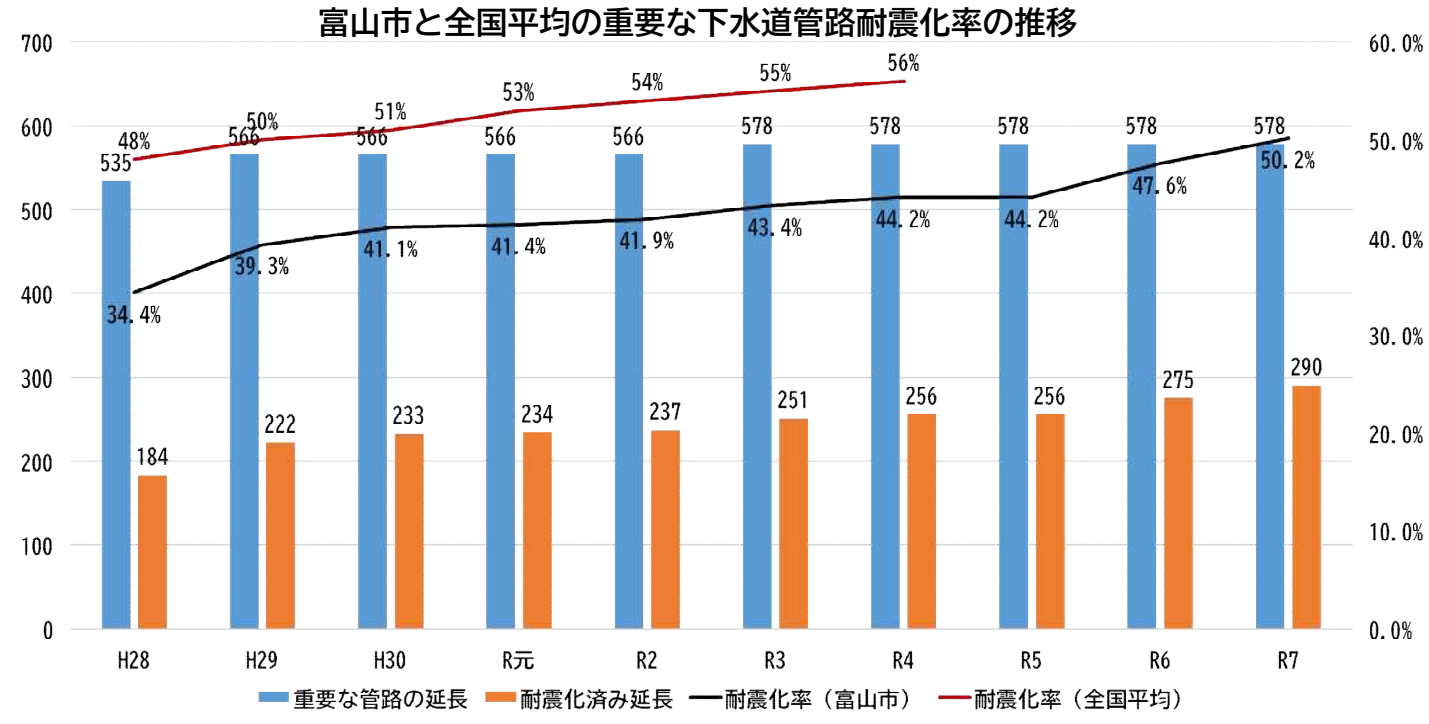


※ 基幹管路とは、水道水を供給する上で重要な管路である導水管、送水管、配水本管（配水管のうち口径350㎜以上で給水管の分岐の無いもの）を指します。

出典：富山市上下水道局作成(国土交通省資料等参照)

(6)下水道管の耐震化率の推移

○　一方、富山市の重要な下水道管路の耐震化率は、全国平均に比べ10ポイント以上低く推移している。



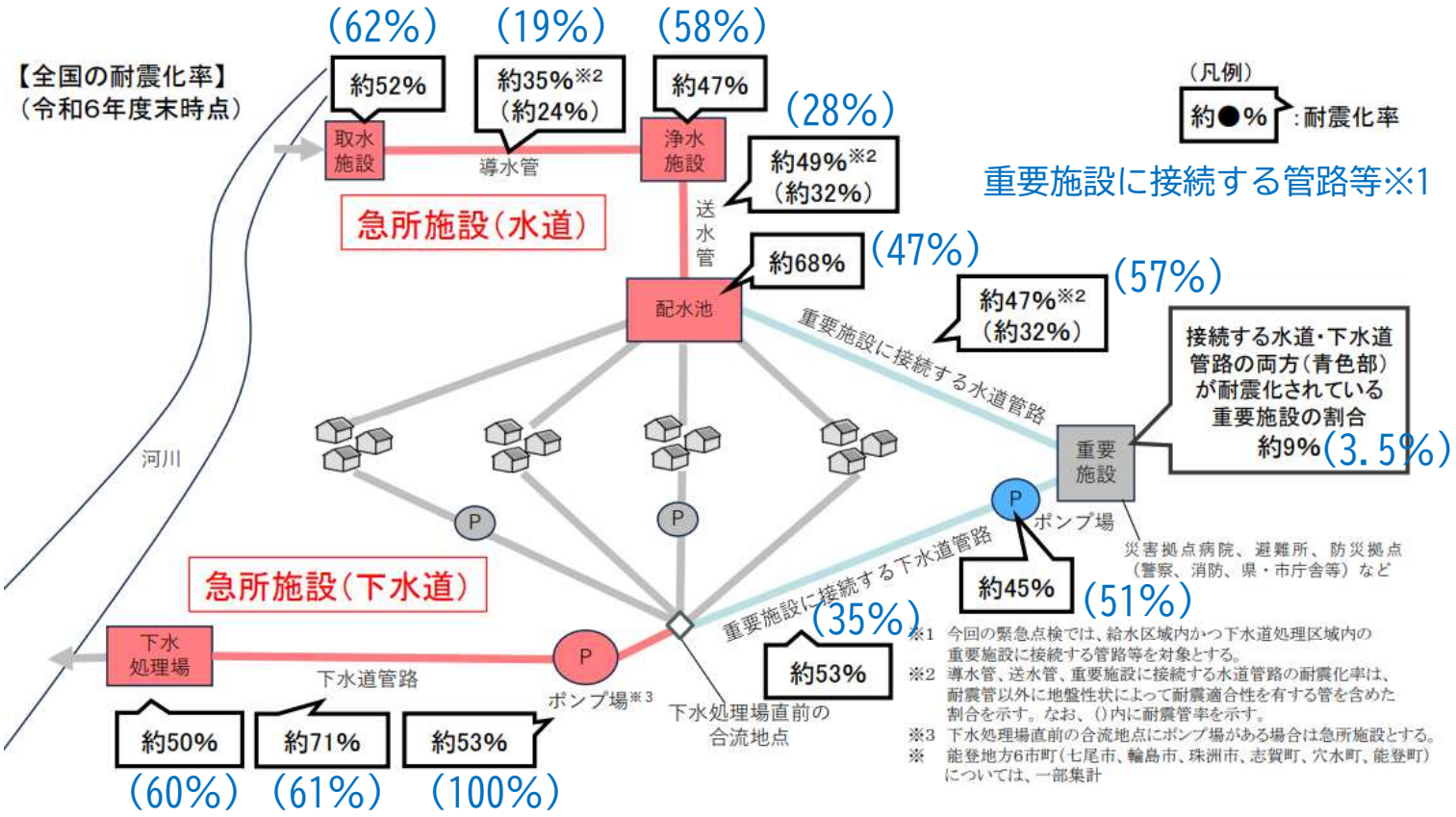
※ 重要な下水道管路とは、地域防災計画に定める緊急輸送道路に埋設されている下水道管や避難所などから下水処理場まで接続する下水道管などを指します。

出典：富山市上下水道局作成(国土交通省資料(R4年度まで)等参照)

災害対応をしっかりと進めなければ・・・
災害発生時に、上下水道インフラが機能不全となるおそれがある

（7）上下水道施設の耐震化状況（令和6年度末時点）

※カッコ内は富山市数値



出典：国土交通省資料ホームページ
（一部、富山市の状況を加筆）

4　下水道管路マネジメントの強化

・令和７年１月に埼玉県八潮市において下水道管が起因する道路陥没事故が発生

・国では「下水道管路マネジメントのための技術基準等検討会（委員長：日本大学　森田弘昭教授）」において点検から改築までを一体的に捉える統合的「マネジメント」の実現に向けた技術基準等を検討

・下水道法改正案が令和８年７月１５日に成立し、管路マネジメントの強化に向けた体制構築が義務付け

今後、管路の維持管理のための業務量・事業費が増大する

【管路マネジメント強化の４つポイント】

１．考え方
- ○　重要な項目は国の技術基準等へ引き上げ
- ○　戦略的なマネジメントの推進

２．点検・診断基準
- ○　診断区分の見直し
- ○「メリハリ」をつけた点検の推進

３．構造に関する基準
- ○　事故時等への対応として機能の「多重化」
- ○　維持管理の容易性を確保

４．作業時の安全性確保
- ○　点検技術の技術開発による高度化
- ○　作業時の安全性確保の徹底

【新たな診断区分】

健全度区分		状態
Ⅳ	緊急措置	緊急に措置を講ずべき状態
Ⅲ	早期措置	早期に措置を講ずべき状態
Ⅱ	要監視	措置を講ずることが望ましい状態
Ⅰ	健全	安全性が低下していない状態

【法改正による点検の強化】

	現行	見直し後(法改正後)	
対象施設	腐食の恐れが大きい下水道管路	腐食の恐れが大きい下水道管路	重要な下水道管路※1
頻度	５年に１回	５年に１回※2	５年～10年に１回※2
方法	目視による点検	自走式カメラによる点検目視による点検	

※１　下水処理場～処理場直前の最終合流地点までの管路　など

※２　点検により劣化が進行している管路は３年に１回など点検を高頻度化

出典：富山市上下水道局作成
（国土交通省資料等参照）

5　物価、エネルギーコスト等の上昇

昨今の不安定な世界情勢に伴い「物価、エネルギーコスト」は、急激に上昇しており、令和8年度までの18年間で、富山市の上下水道施設稼働の動力となる電気料金が31.6%上昇し、公共工事設計労務単価が93.5%上昇したほか、凝集剤のポリ塩化アルミニウムが37.7%、殺菌消毒剤の次亜塩素酸ナトリウムが84.5%上昇している。

また、企業債の借入利率は令和元年度と令和８年度では、0.30%から3.60%へ１２倍になっており、今後も上昇する見込みである。

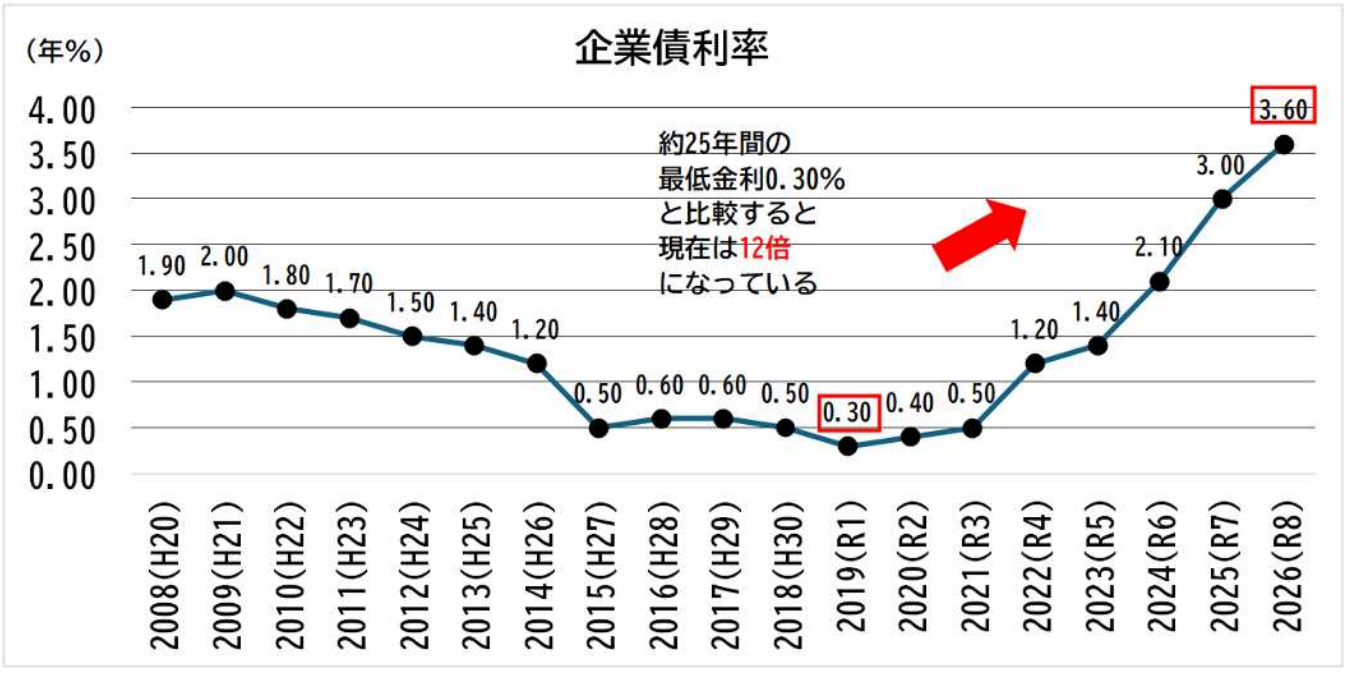
このままでは･･･ 物価・エネルギーコスト等が継続的に上昇していくと、安定した経営が困難になるおそれがある。

【18年：平成20年度 ➡ 令和8年度】

～ 水道水供給や下水処理に必要な経費に関する物価状況 ～

品目	H20	R8	増加額（H20→R8）	上昇率
電気料金（1か月モデル料金）	5,820円	7,660円	＋1,840円	31.6%
ポリ塩化アルミニウム（凝集剤）（円/kg）	30.5円	42.0円	＋11.5円	37.7%
次亜塩素酸ナトリウム（殺菌消毒剤）（円/kg）	29.0円	53.5円	＋24.5円	84.5%
公共工事設計労務単価 ※全国全職種平均値	13,351円	25,834円	＋12,483円	93.5%

出典：富山市上下水道局作成（国土交通省資料等参照）



出典：富山市上下水道局作成

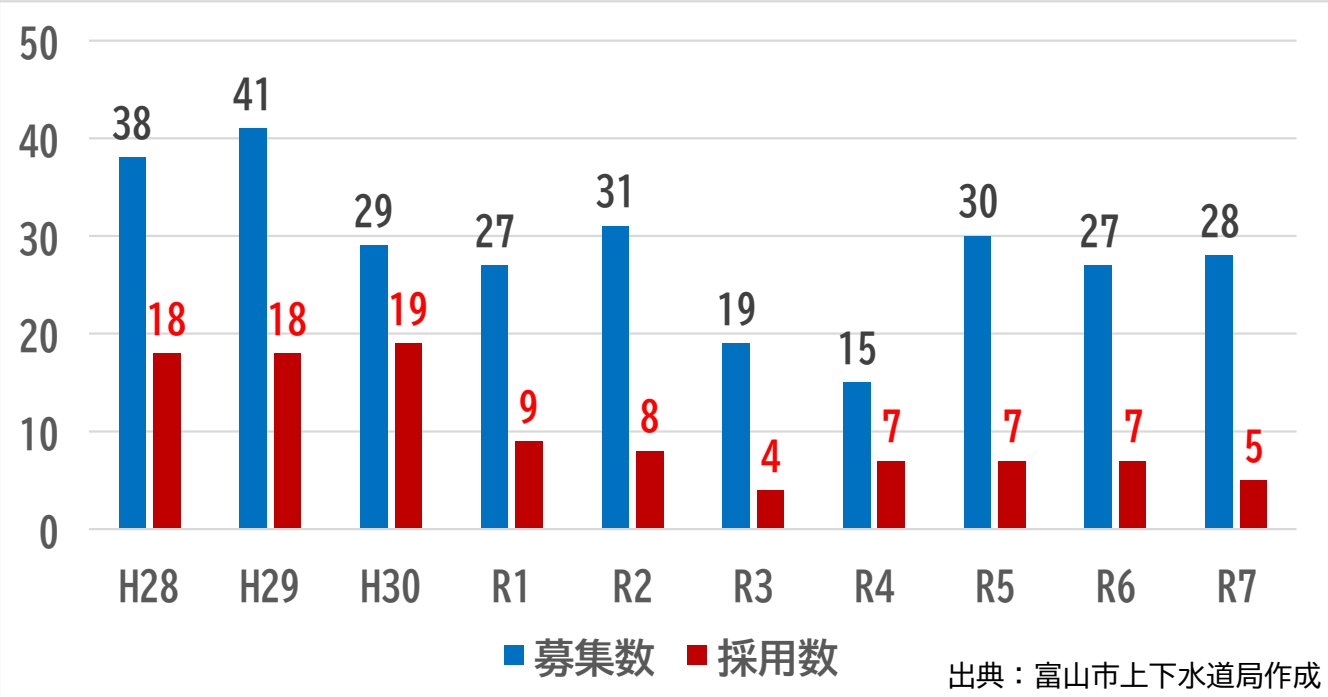
6 専門人材の不足

富山市の「技術職員（土木・電気・機械・化学職）」の採用数は、募集人数に達しない状態が１０年以上続いている。

このままでは･･･ 専門人材の不足が継続していくと、技術継承や施設整備の遅れなどが懸念される。

（人数）

【富山市の技術職員の採用状況の推移（土木・電気・機械・化学職）】



出典：富山市上下水道局作成

（参考）類似団体平均と富山市上下水道局の職員数と平均年齢の比較

➡ 富山市上下水道局は、類似団体平均と比べ職員数が少なく、平均年齢が若い（ベテラン職員が少ない）。

	職員数(R7.3.31)	平均年齢(R8.4.1)
富山市	157	40.8
近隣類似団体平均 (金沢市、長野市、岐阜市)	194	44.4

出典：富山市上下水道局作成(総務省「地方公共団体給与情報等システム」等参照)

7　事業者数の減少

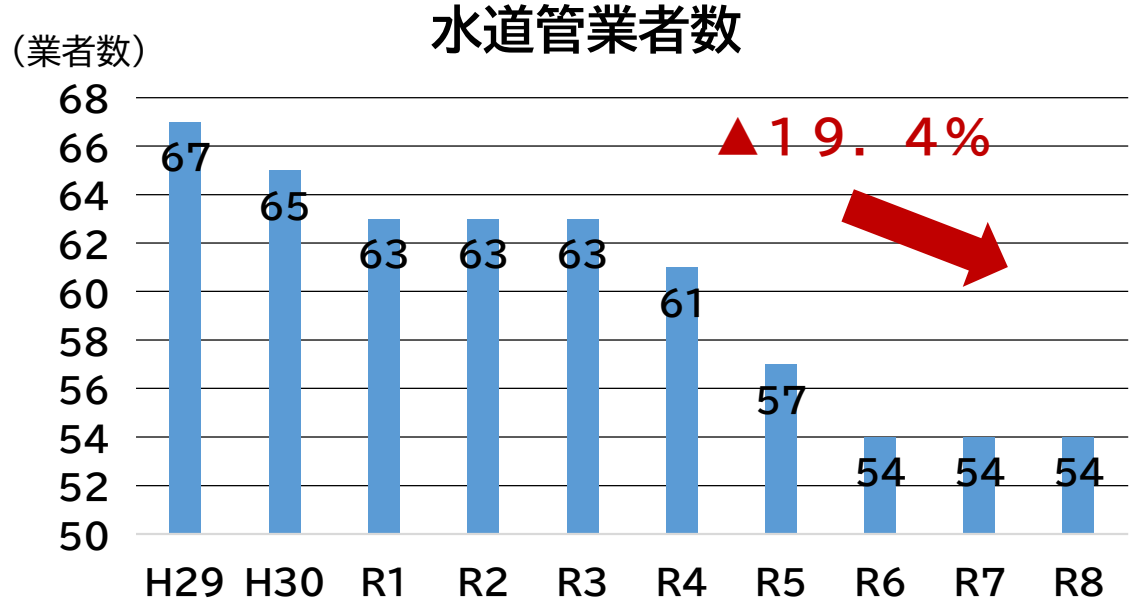
・上下水道事業を施工する業者が１０年間で　▲３３業者［▲　８．５%］

➢水道管業者数
　６７業者（H29）➡　５４業者（R8）　▲１３業者［▲１９．４%］

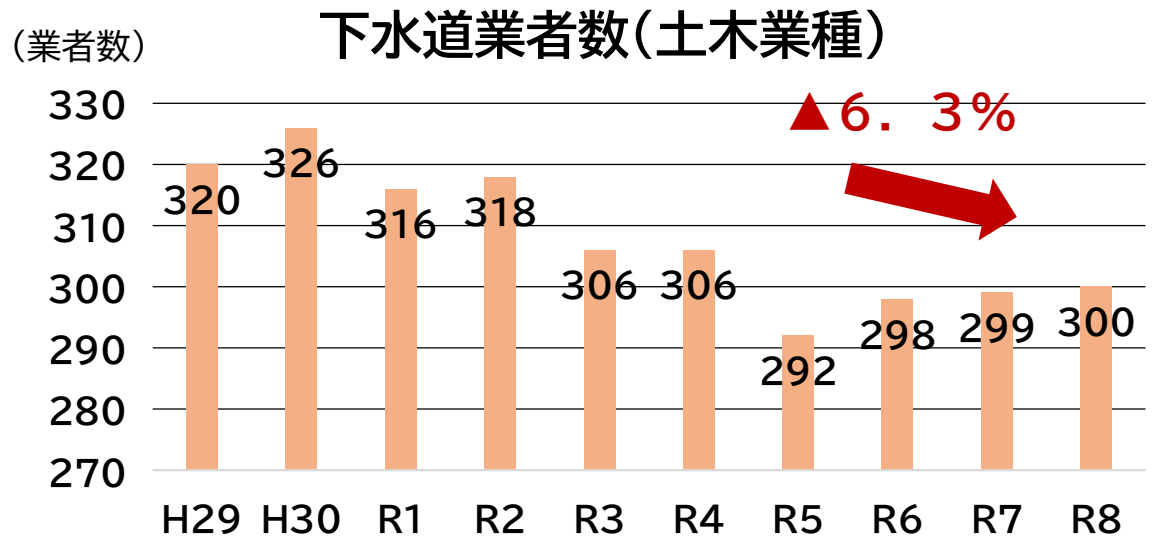
➢下水道業者数（土木業種）
　３２０業者（H29）➡３００業者（R8）　▲２０業者［▲　６．３%］

このままでは･･･ 上下水道業者数が減少していくと、施設整備や維持管理に支障がでるおそれがある。

【富山市の上下水道業者数の推移】



出典：富山市上下水道局作成



出典：富山市上下水道局作成

第3章 2050年の富山市上下水道の理想像(あるべき姿)

上下水道に関するタウンミーティングやワークショップ等の活動を通して、現在市民の「思い」と同時に将来市民が持つであろう「希望」や「願い」などから、２０５０年における富山市の上下水道の理想像（あるべき姿）を描きました。

1 現在市民と将来市民に共通する希望･願い

（１）いつでも安全・安心でおいしい水道水を使いたいよね！

（２）できるだけ料金の値上げをしてほしくないよね！

（３）子や孫世代に対しても上下水道サービスがしっかり提供されればいいよね！

（４）下水道管の破損に起因した道路陥没等が起きないようにしてもらいたいよね！

（５）水道管の破損等による急な断水が起きないようにしてもらいたいよね！

（６）地震など大規模な自然災害が発生した時でも上下水道が普通に使えたらいいよね！

（７）台風や豪雨などによって住宅などの浸水被害が起きなければいいよね！

（８）省エネや資源再利用の推進など環境にやさしい事業運営に努めてもらいたいよね！

（９）市民の疑問や困りごとに対していつでも丁寧でわかりやすく答えてもらいたいよね！

（１０）富山市の水道水の魅力をもっと広くＰＲしてもらいたいよね！

（１１）ＡＩやデジタル技術を積極的に導入し業務の効率化や改善に努めてもらいたいよね！

（１２） 上下水道を担う人材の育成・確保にしっかり対応してもらいたいよね！

2 2050年の理想像(あるべき姿)

（１）現在（２０２６年）と変わらず、２４時間３６５日いつでも安全・安心で安定した上下水道サービスが提供されている。

（２）地震や豪雨など大規模な自然災害に対して強靭な上下水道インフラが整備されている。

（３）環境にやさしく低炭素社会の実現にも貢献した事業運営が行われている。

（４）健全な経営が維持された状態である。

第4章 経営の基本理念と基本方針

1 経営の基本理念

かつて経験したことのない人口減少社会が進展する中、戦後、先人が築き上げてきた今日の上下水道システムは大きな転換点に差し掛かっています。２０５０年の富山市上下水道の理想像(あるべき姿)を追い求めるには、従来からの習慣や固定観念にとらわれず社会経済情勢の変化や時代の潮流に柔軟に対応しながら、知恵を絞り、情熱を傾け、職員が一丸となって、お客さまと共に新たな価値を「創造」する姿勢が重要です。そして、現状に満足することなく自ら課題を把握し、その解決に向けて果敢に「挑戦」し続けることで、お客さまの安全安心な生活を支える上下水道を持続可能なものとして未来へと引き継いでいきます。

2 経営の基本方針

本市の上下水道事業を取り巻く現状と課題を踏まえ、基本理念である「創造と挑戦」を実践していくため、次の４つの経営の基本方針を定めます。

（1）安全・安心

安全・安心でおいしい水道水の安定供給と健全な水環境の創出

（2）強靭

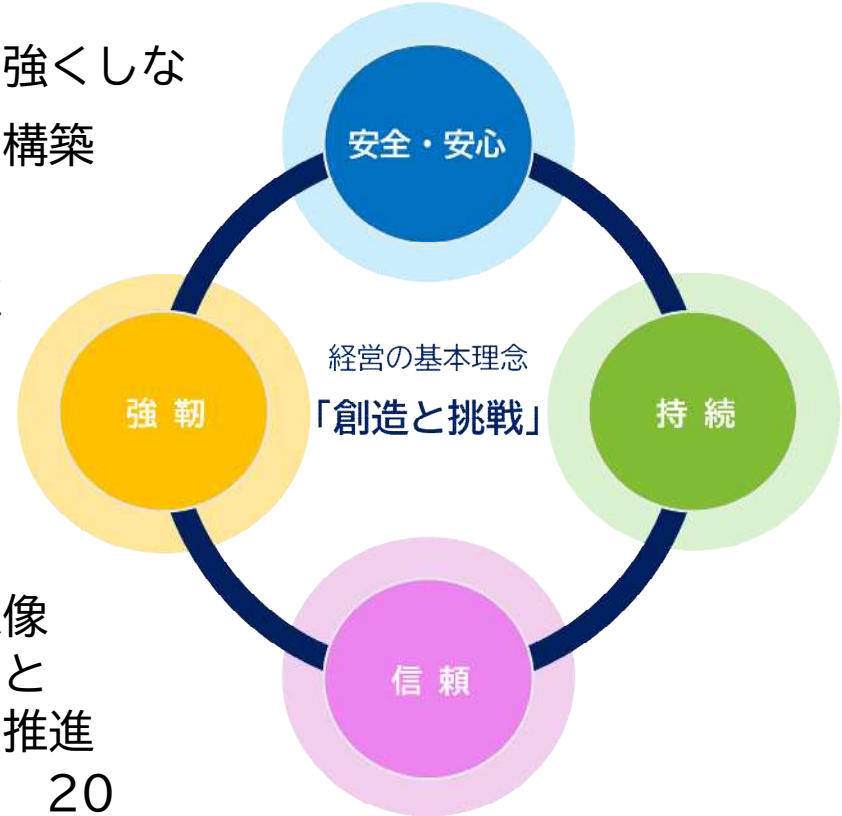
災害等の危機事象に対して強くしなやかな上下水道インフラの構築

（3）持続

健全経営の維持と上下水道サービスの未来への継承

（4）信頼

上下水道のユーザーでありオーナーでもあるお客さまとの上下水道の課題や理想像についての共有とお客さまとの信頼関係に基づく事業の推進



第5章 主要施策

基本方針1 安全・安心

目指すべき2050年の姿

安全・安心でおいしい水道水の安定供給と健全な水環境の創出が具現化されている。

○施策の「方向性」1 水道水の安全性の向上

【主要施策】

①	**適切な水質検査の実施**	これまでもこれからも：安全な水道水を利用者へ提供するため、水質検査計画で定めた水質検査を着実に実施します。
②	**鉛製給水管の布設替えの計画的な推進**	新たに挑戦：平成4年ごろまで使用されていた鉛製給水管を計画的に安全なポリエチレン管に交換します。

○施策の「方向性」2 下水道による水環境の向上

【主要施策】

③	**水環境の保全**	これからもこれまでも：家庭などから流れ着いた汚水を処理場できれいにし、海や川へ返します。

基本方針1 安全・安心

○施策の「方向性」3 上下水道管路の改築及び上下水道基幹施設の計画的な更新

【主要施策】

④ 老朽水道管の更新	これまでもこれからも	老朽化する膨大な水道管に対し、優先順位を定めたメリハリの利いた更新計画を策定することにより効率的かつ効果的な更新を実施します。
⑤ 老朽下水道管の更新	これまでもこれからも	老朽化する膨大な下水道管に対し、優先順位を定めたメリハリの利いた更新計画を策定することにより効率的かつ効果的な更新を実施します。
⑥ 流杉浄水場の再整備	新たに挑戦	本市最大規模の水道基幹施設である流杉浄水場の再整備を進めます。
⑦ 下水処理場の大規模設備の更新	新たに挑戦	浜黒崎浄化センターなど下水処理場の大規模設備更新事業を計画的に推進します。

○施策の「方向性」4 上下水道管路・施設の適切な維持管理

【主要施策】

⑧ 水道施設の維持管理	これまでもこれからも	水道水の安定供給のため、浄水場などに設置されている機器や設備の適切な点検及び修繕を行います。
⑨ 水道管の維持管理	これまでもこれからも	水道水の安定供給、漏水による道路陥没を防ぐため水道管の適切な点検及び修繕を行います。
⑩ 下水道施設の維持管理	これまでもこれからも	汚水処理を着実に行うため処理場などに設置されている機器や設備の適切な点検及び修繕を行います。
⑪ 下水道管の維持管理	これまでもこれからも	汚水処理を着実に行うほか、下水道管破損による道路陥没等を防ぐため下水道管の適切な点検及び修繕を行います。

基本方針2　強靭

目指すべき2050年の姿

災害等の危機事象に対して強くしなやかな上下水道インフラの構築が具現化されている。

○施策の「方向性」 5 災害対応力の強化

【主要施策】

⑫ 上下水道システムの冗長性※の確保	これまでもこれからも	災害発生等の非常時に備え、上下水道管のループ化や複線化など、冗長性がある上下水道システムの構築を進めます。
⑬ マンホールトイレの整備	これまでもこれからも	災害時にも避難所等においてトイレが使用できるよう、避難所等へのマンホールトイレの設置を進めます。
⑭ 内水ハザードマップの作成	新たに挑戦	激甚化する集中豪雨への備えとして、豪雨時に危険箇所や避難施設を示した内水ハザードマップを作成します。
⑮ 上下水道台帳のクラウド化	新たに挑戦	災害時に上下水道施設の点検から復旧までの情報を一元的に管理することで、復旧に向けて迅速に対応できるよう、上下水道台帳のクラウド化を進めます。
⑯ BCPの改定の実施	これまでもこれからも	災害発生時における業務継続計画(BCP)のアップデートを行います。
⑰ 実践的訓練の実施	これまでもこれからも	大規模な自然災害に直面しても、市民の命と生活を支える上下水道インフラの機能維持や早期復旧ができるよう、他の事業体等や地域住民と連携した実践的訓練を実施します。

≪用語解説≫
冗長性(リダンダンシー) … システムの二重化やネットワーク化などにより、システムの信頼性や安全性が高まっていること。

基本方針2　強靭

⑱ 落雷への対応強化【追加】	新たに挑戦	水道施設への落雷による給水停止に対応し、安定した水の供給を実現するため、自家発電設備の整備や施設の更新に合わせた避雷器の設置などにより対応を強化します。
⑲ 上下水道施設の耐震化	更に前進	能登半島地震の教訓を踏まえ、上下水道システムの「急所」や避難所等の「重要施設」に接続する管路など上下一体での耐震化を推進します。
⑳ 上下水道施設の耐水化	新たに挑戦	河川氾濫等が発生し、上下水道施設が浸水した際にも、最低限の機能が確保されるよう、上下水道施設の耐水化を推進します。
㉑ 浸水対策の推進	更に前進	大雨の際にも浸水しない強靭なまちを形成するため、「富山市浸水対策基本計画」に基づき、雨水幹線の整備や合流式下水道の改善など、浸水対策を推進します。

基本方針3　持続

目指すべき2050年の姿

健全経営の維持と上下水道サービスの未来への継承が具現化されている。

○施策の「方向性」 6 持続可能な上下水道システムの構築

【主要施策】

㉒ 汚水処理システム全体の最適化	新たに挑戦	人口減少やまちづくり等の実情を踏まえ、将来の下水道区域から浄化槽区域への転換など持続可能な汚水処理を実現するための計画策定を進めます。
㉓ 上下水道施設規模の最適化（ダウンサイジング）	新たに挑戦	将来の水需要の減少に適応するため管路のダウンサイジング化や処理場の統廃合などの検討を進めます。
㉔ 公共下水道事業と農業集落排水事業との統合（一元化）	これからもこれまでも	資産の合理的な再編や、汚水処理システムの冗長性の観点を踏まえ、公共下水道施設と農業集落排水施設との統廃合など、地域特性に応じた最適な汚水処理体制の構築を目指します。

基本方針3　持続

○施策の「方向性」 7 経営基盤の強化

【主要施策】

㉕ 上下水道料金の適正化	これまでもこれからも	将来にわたり上下水道を安定的に維持するため、上下水道施設の更新計画等の見直しに合わせた料金の見直しなど投資と収益のバランスに配慮した経営を行います。
㉖ デジタル技術の活用による上下水道DXの推進	新たに挑戦	人口減少による人的リソースなどの制限に加え、上下水道施設のマネジメントを強化していくため、デジタル技術を活用した上下水道DXを推進します。
㉗ 業務執行体制の見直しと官民連携の推進	更に前進	上下水道サービスの安定的な提供を支える職員の減少等の課題に対応するため、下水道分野（公共下水道及び農業集落排水等の管路施設）における「水の官民連携」（ウォーターPPP）の導入や、汚水処理場の包括的民間委託の拡大など民間活力の導入を進めます。
㉘ 資産の有効活用	更に前進	施設の統廃合等により現在使用せず、また今後も活用の見込みのない不動産について、売却等の整理を具体的に進めます。
㉙ 新しい工事発注方法の導入	新たに挑戦	設計・施工一括発注方式（デザインビルド方式（DB方式））などの効率的な工事発注方法の導入の検討を進めます。
㉚ 人材の確保・育成	更に前進	人材の確保に努めるとともに新たに人材育成方針を定め、次代を担う上下水道技術者の育成を図ります。
㉛ エンゲージメントの向上【追加】	新たに挑戦	職員の組織への愛着・帰属意識の醸成や業務への意欲向上を図ることで、組織力の向上を目指します。

基本方針3　持続

○施策の「方向性」 8 脱炭素・資源利用の推進

【主要施策】

㉜ 汚泥等の資源の有効活用	新たに挑戦	浄水の過程で発生する浄水発生土や下水処理の過程で発生する下水汚泥を資源と捉え、有効活用し環境負荷の低減を図ります。
㉝ 温室効果ガスの排出削減と再生可能エネルギーの有効活用	これまでもこれからも	小水力や消化ガス、太陽光などの再生可能エネルギーを有効活用しCO2の排出量を抑制し、ゼロカーボンシティ政策に貢献します。

基本方針4　信頼

目指すべき2050年の姿

上下水道のユーザーでありオーナーでもあるお客さまと上下水道の課題や理想像(あるべき姿)が共有され、お客さまとの信頼関係に基づき事業が推進されている。

○施策の「方向性」9 お客さまとの信頼関係の構築

【主要施策】

㉞ 双方向のコミュニケーションの推進	更に前進	上下水道に関するタウンミーティングやワークショップ等を通じて、お客さまに上下水道の理解を深めていただくとともに、将来にわたり持続可能な上下水道とするために解決すべき課題等について共に考え、信頼関係を醸成します。
㉟ 積極的な情報発信	更に前進	上下水道局公式ホームページや公式LINE、情報紙「上下水道局だより」などを活用し、わかりやすい情報発信に努めます。

○施策の「方向性」10 お客さまサービスの向上

【主要施策】

㊱ お客さまニーズの把握	これからもこれまでも	上下水道アンケートの実施など、様々な機会を捉えて幅広くお客さまのニーズを把握し、事業運営に活かします。
㊲ お客さまの利便性の向上	更に前進	お客さまの利便性向上のため、オンラインによる納付手続きの多様化を推進します。
㊳ 水道水のPRの推進【追加】	更に前進	外出先でおいしい水道水を補給できる環境を整えるとともに、市外の方にとやまの水のすばらしさを体感していただきます。

第6章 投資・財政計画

投資・財政計画の策定にあたっては、これまでの実績と今後の人口減少を踏まえた水需要予測に加え、令和１３年度から世帯数が減少に転じる見込みを反映し、現行の料金体系により収益を積算するとともに、計画期間内（令和９年度から令和１８年度）において予定している事業、取り組みを基に積算しました。

水需要が減少する一方で、物価の高騰やエネルギーコストの上昇、施設の老朽化や耐震化等への対策、企業債借入金利の上昇等、多くの費用が必要となり、大変厳しい経営環境が見込まれます。

こうした状況においても、将来世代に安全安心な水道水と快適なくらしをつないでいくためには、施設の更新などの投資が必要不可欠であり、経費削減の徹底などの経営努力を重ね、収益と投資のバランスを取りながら確実な事業の推進に努めます。

（１）水道事業における投資・財政計画の積算方法について

①収益的収入

ア．給水収益…人口及び世帯数については、富山市将来人口推計報告書（令和７年２月作成）をベースとし、現行の料金体系を基に算出しています。

イ．長期前受金戻入…令和７年度までに取得した資産の長期前受金戻入に、今後の建設改良費等に伴い発生する長期前受金戻入を各年度に加算し算出しています。

ウ．他会計負担金…簡易水道を統合するために要した経費等のために発行した企業債の利息については総務省が定める繰出基準より、一般会計負担金として計上しています。

②収益的支出

ア．職員給与費…現在の職員数を維持することを前提として、令和７年度人件費決算額を基準に、富山県人事委員会勧告の過去１０年間平均改定率（0.793%上昇）をベースに算出しています。

イ．動力費…令和７年度の１㎥当たりの単価×各年度の有収水量×過去５年間の消費者物価指数（2.2%）として算出しています。

ウ．減価償却費…令和７年度までに取得した資産の減価償却費に今後の建設改良費等に伴い発生する減価償却費を各年度に加算して算出しています。

エ．企業債利息…新規発行の企業債の借入利率を3.6%として算出しています。
※令和８年６月の地方公共団体金融機構の３０年固定金利

③資本的収入

ア．企業債…各年度の建設改良事業における委託料・工事請負費・補償費に相当する額を企業債充当事業とし、国庫補助等の財源を除いた事業費に対して８５％を企業債として充当することとして算出しています。

イ．出資金…簡易水道を統合するために要した経費等のために発行した企業債の利息については総務省が定める繰出基準より、一般会計出資金として計上しています。

ウ．国庫補助金…国土交通省所管の建設改良費に係る国庫補助金の支給要件を基に算出しています。

④資本的支出

ア．建設改良費…第３次ビジョンに掲げる主要事業の事業費及び固定資産購入費、人件費などを反映し算出しています。

イ．企業債償還元金…令和７年度までに借入れた企業債の元金償還金に新規に発行した元金の償還額（５年据置、３０年償還）を各年度に加算して算出しています。

（２）公共下水道事業における投資・財政計画の積算について

①収益的収入

ア．下水道使用料…人口及び世帯数については、富山市将来人口推計報告書（令和７年２月作成）をベースとし、現行の料金体系を基に算出しています。

イ．長期前受金戻入…令和７年度までに取得した資産の長期前受金戻入に、今後の建設改良費等に伴い発生する長期前受金戻入を各年度に加算し算出しています。

ウ．他会計負担金…雨水処理に要する経費（維持管理費）等については、総務省が定める繰出基準より、一般会計負担金として計上しています。

②収益的支出

ア．職員給与費…現在の職員数を維持することを前提として、令和７年度人件費決算額を基準に、富山県人事委員会勧告の過去１０年間平均改定率（0.793%上昇）をベースに算出しています。

イ．動力費…令和７年度の１㎥当たりの単価×各年度の有収水量×過去５年間の消費者物価指数（2.2%）として算出しています。

ウ．減価償却費…令和７年度までに取得した資産の減価償却費に今後の建設改良費等に伴い発生する減価償却費を各年度に加算して算出しています。

エ．企業債利息…新規発行の企業債の借入利率を3.6%として算出しています。
※令和８年６月の地方公共団体金融機構の３０年固定金利

③資本的収入

ア．企業債…各年度の建設改良事業における委託料・工事請負費・補償費に相当する額を企業債充当事業とし、国庫補助等の財源を除いた事業費に対して９５％を企業債として充当することとして算出しています。

イ．出資金…雨水処理に要する経費（建設改良費）等については総務省が定める繰出基準により、一般会計出資金として計上しています。

ウ．国庫補助金…国土交通省所管の建設改良費に係る国庫補助金の支給要件を基に算出しています。

④資本的支出

ア．建設改良費…第３次ビジョンに掲げる主要事業の事業費及び固定資産購入費、人件費などを反映し算出しています。

イ．企業債償還元金…令和７年度までに借入れた企業債の元金償還金に新規に発行した元金の償還額（５年据置、３０年償還）を各年度に加算して算出しています。

※富山市では、市街化区域の「公共下水道事業」とそれ以外の区域の「特定環境保全公共下水道事業を」「公共下水道事業」として運営しています。このため、それぞれの投資・財政計画を合算して１つの投資・財政計画として作成しています。

（投資・財政計画は別紙 参照）

第7章 経営指標

（別紙 参照）